

ほっと！びれっじ とびしま



■飛島村

T O B I S H I M A

愛知県の西南部、海部郡の南東端に位置し、東は日光川の中央を境とし、蟹江町・名古屋市港区に、西は筏川の中央を境とし弥富町に対し、北は十四山村に隣接し、南は伊勢湾の最北部に面しています。

全体の面積は約22km²と小さな村ですが、北部は農村地帯、南部は臨海工業地帯となっており、昔ながらの、田園風景と名古屋港を中心とした貿易の根拠としての機能が共存している村です。

農村地帯では、水稻・麦・露地野菜・温室野菜・花卉等の栽培が盛んに行われています。また、一部では金魚の養殖も行われています。

臨海工業地帯には、輸送関連会社・倉庫会社・木材関連事業所・鉄鋼関連事業所・火力発電所などが立地しており名古屋港の物流の重要な地域となっています。

本村は、面積のほとんどが開拓された土地です。1693年に大宝新田、1801年に飛島新田、1879年に成政新田が開拓されました。

その後、1889年に飛島、服岡、成政の合併によって海西郡飛島村が成立し、さらに1906年には、大宝、八島、重宝を合併して純農村地帯として発展を続けました。また、1971年に名古屋港西部臨海地帯の西2区・4区が本村に編入されたことで現在の村域が形成されました。

飛島村開拓の歴史の中でも飛島新田は767ヘクタールと規模が大きく、大変困難をきわめた開拓でした。この新田は、当時、熱田奉行兼舟奉行であった津金文左衛門が尾張藩主の命を受けて開拓されたもので、現在も飛島村開拓の恩人として、元松神明社に銅像としてその姿を留め、飛島の地を見守り続けています。



津金文左衛門

飛島村役場ホームページアドレス <http://www.vill.tobishima.aichi.jp>